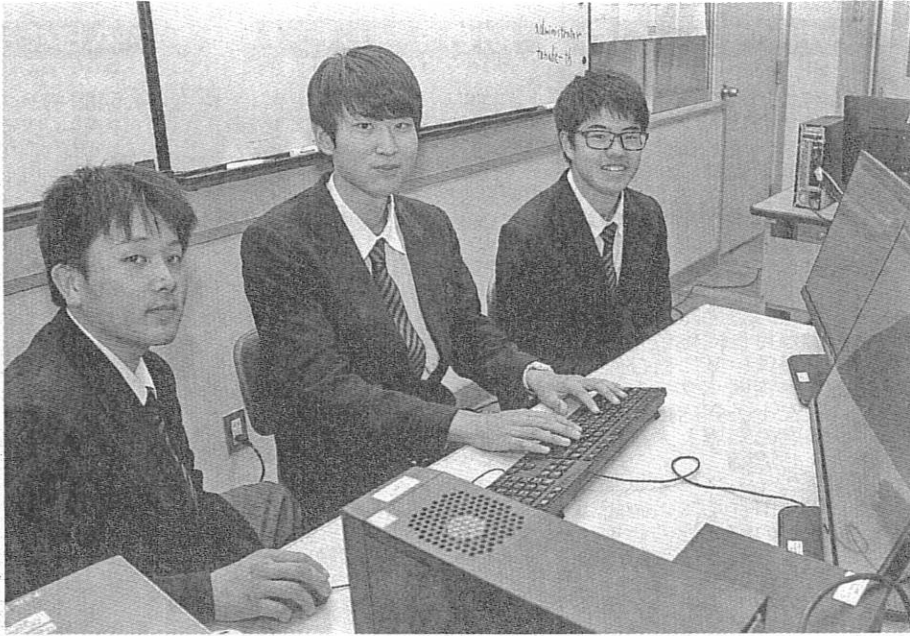


全国コンペで優秀賞

統計データ 分析論文 田辺工業高の宮本君ら

全国から統計データを分析した論文を募り、そのアイデアや技術を競う「統計データ分析コンペティション」で、田辺工業高校(田辺市あけぼの) 機械科3年生の宮本兩月君(18)、金山瑠依君(18)、門脇俊樹君(18)による論文が優秀賞に選ばれた。



統計データ分析コンペティションで優秀賞を受けた、田辺工業高校3年生の(右から)門脇俊樹君、宮本兩月君、金山瑠依君
＝田辺市あけぼの

コンペティションは、総務省と統計センター(東京都)、日本統計協会(同)が共催した。統計データの活用や分析技術の成長を進め、次世代を担う高校生や大学生らを育成しようと、本年度から始めた取り組み。

高校生の部と大学生・一般の部があり、高校生の部には全国の7校が応募。審査の結果、総務大臣賞と優秀賞、日本統計協会賞、特別賞をそれぞれ選んだ。

田辺工業高校の宮本君らは、全国の市町村ごとに人口や事業所数、歳入・歳出など100項目以上のデータをまとめた「教育用標準データセット(SSDSEデータ)」、文部科学省による全国学習状況調査結果を分析。関連する項目と数値を抽出し、小学生の学習への関心や取り組みについて、大家族世帯ほど良い影響を与えたと指摘した。

論文の作成は8月中旬から始めた。門脇君が都道府県ご

との平均値を算出し、金山君が数値の打ち込みと計算を担当。それを基に宮本君が論文を書いた。役割分担しながら、1カ月ほどかけて仕上げたという。

宮本君は「どうすれば分かりやすく、相手に伝わるか、文章を考えるのが難しかった。2人の協力があったおかげ。受賞はともうれしかったし、自信もついた」と喜んだ。

金山君は「データを基に、どうやったら求める答えが出るか計算式を考えるのが難しかった」と振り返り、門脇君は「国から賞をもらったのは初めて。3人で協力して取れた賞なので、みんなには感謝している」と話した。